

老の木

NO.21
月刊

第九輯 系譜篇 第二号

昭和三十五年三月一日 発行 (非賣品)

発行所 国山県都窪郡吉備町立瀬七之字垣方

吉

備

觀

光

助

会

妹尾戸川氏系譜

安成 三衣庭賀藩主正安の三男

助七郎 正龍

法名慶立院 宝永五年十二月

三日没 盛隆寺に葬る

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

<p

と縁組后無婚死去、后室は松平伊賀守忠周の女

(B)

山之助 早世

(B) 宅 初太郎 早妻当才 元文元年十月十四日卒最上寺に葬る法名曉了院紅林詔心
6 安泰助名金藏 内蔵助 主税 宝曆五年九月三日相続 宝曆五年九月廿日大入院 最上寺に葬る
法名續功院桓誉義節大居士

女早世 萩太郎 早世 武太郎 早世 勇三郎 早世 友三郎 早世

ク 安源(スキ) 主税 宝曆五年十二月四日相続 安永六年六月廿二日二十三才卒 最上寺に葬る
法名厚運院順譽 繁榮隨大居士 室はない

1 女島山徹部、義福の嫡子島修理美の室

安惟(初名金盛又は熊五郎) 隠岐守 大明六年十二月六日相続 文政六年七月廿七日隠居、文政七年十一月六日五十五才没、最上寺に葬る 法名至信院誠譽 晴山大居士

実母は鳥居丹波守方に出生した家女早世、妾腹の子。室は酒井豊前守忠順の女。

10 安民(母は忠順の女、初名熊五郎)、内蔵助 高三千石 安政六年九月廿二日相続 弘化四年十二月廿五日隠居、嘉永四年十二月廿三日五十九才卒 最上寺に葬る 法名興徳院豊譽 岩仁大居士、室は鶴川半妻正行利愛義敷方叔母法名淨安院

11 金也亟 英和曲渕大学英芳の養嗣

12 安行の室 小堀新右衛門改富田の室 戸川因幡守玄明の室(常江領主)

13 安道(初名熊次郎) 携次郎 高三千石 安政三年十月廿二日相続(十三万の時) 明治元年正月二日安宅慶應元年二月十六日相続、泉州瀬男 安雄

14 安行(母は忠順の女、内蔵助 高三千石) 安政三年十二月廿五日相続、安政二年七月三日五十八才最上寺に葬る 法名清岸院超譽功德大居士、母は行利愛義敷方の叔母

室は安民の女、后室は火野主佐守忠典の妹

15 安行の室 佐野(母は忠順の女、内蔵助 高三千石) 安行守政和の室

16 安行(母は忠順の女、内蔵助 高三千石) 安行守政和の室

17 安行(母は忠順の女、内蔵助 高三千石) 安行守政和の室

18 安行(母は忠順の女、内蔵助 高三千石) 安行守政和の室

19 安行(母は忠順の女、内蔵助 高三千石) 安行守政和の室

20 安行(母は忠順の女、内蔵助 高三千石) 安行守政和の室

21 安行(母は忠順の女、内蔵助 高三千石) 安行守政和の室

22 安行(母は忠順の女、内蔵助 高三千石) 安行守政和の室

23 安行(母は忠順の女、内蔵助 高三千石) 安行守政和の室

24 安行(母は忠順の女、内蔵助 高三千石) 安行守政和の室

25 安行(母は忠順の女、内蔵助 高三千石) 安行守政和の室

26 安行(母は忠順の女、内蔵助 高三千石) 安行守政和の室

27 安行(母は忠順の女、内蔵助 高三千石) 安行守政和の室

28 安行(母は忠順の女、内蔵助 高三千石) 安行守政和の室

常江中川氏系譜

1 安達 安安の六男 大九郎、平右衛門、主膳、三千三百石。2 幼名大九郎 主膳 平右衛門備前守、日向守

3 安利 室は吉田治部右衛門の女

4 常安 常安守

5 采天野守左衛門の養子

女 加藤利兵衛の妻
女 小泉新吾左衛門の妻
女 関戸理太夫の妻
女 安勝主膳早妻 安作報及

女 宮原江戸坂隱岐守の四男 享保十一年八月廿五日
母は大沢丹波守基隆の女
室は小笠原大炊頭の女

女 宮原江戸坂隱岐守の四男 享保十一年八月廿五日
母は日養子、初め友之助、五右エ門、後十人、左門、元明五年五月八日六十八才
法名 大立院道生居士
室は安木平四郎の女、后室大沢丹波守の娘

孫五郎 戸川助七郎の養子

5 村奥 左門、主膳 錆太郎 安章

6 村由 夫次郎

安章 母は小笠原上総介政方の女
室は堀隼人長尚の女

安存又は安漣 母は家女
室は戸川隱岐守

女 畠山十太夫の室
広太郎 早吉

7 安章

安愛 明治元年鳥羽伏見の戦に従ひ度
喜に従ふ、後ち室屋即長となる
明治十八年九月死

8 錆三郎

子を曉香 安樂の四男
母は家女

江雪

母は家女

○ 三村修理亮元親系譜 (第4輯 茂羽城地、明禪寺の合戦、松山城、合戦参考) (A)

三村入道 明暦年間足利氏に仕へ茂羽庄を

領す 信州狭江の住人と傳ふ

数代

宗親 茂羽城主永正年中

家親

大内氏に仕ふ

安澄の女

親成 紀伊守
茂羽城主八千石

親宣 孫志郎
毛利氏に属す慶長年間福山城主水野勝成に仕へ

長臣となり高千石、福山龍興寺に數代の位牌あり

明治十八年九月死

安愛 明治元年鳥羽伏見の戦に従ひ度
喜に従ふ、後ち室屋即長となる
明治十八年九月死

江雪

母は家女

室は戸川隱岐守

長尚力藏 塚隼人の養子 女 安章の室

8 錆三郎

子を曉香 安樂の四男
母は家女

江雪 母は家女
室は戸川隱岐守

安存又は安漣

母は家女

室は戸川隱岐守

安澄の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安愛の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安存又は安漣

母は家女

室は戸川隱岐守

安澄の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安愛の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安存又は安漣

母は家女

室は戸川隱岐守

安澄の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安愛の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安存又は安漣

母は家女

室は戸川隱岐守

安澄の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安愛の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安存又は安漣

母は家女

室は戸川隱岐守

安澄の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安愛の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安存又は安漣

母は家女

室は戸川隱岐守

安澄の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安愛の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安存又は安漣

母は家女

室は戸川隱岐守

安澄の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安愛の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安存又は安漣

母は家女

室は戸川隱岐守

安澄の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安愛の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安存又は安漣

母は家女

室は戸川隱岐守

安澄の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安愛の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安存又は安漣

母は家女

室は戸川隱岐守

安澄の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安愛の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安存又は安漣

母は家女

室は戸川隱岐守

安澄の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安愛の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安存又は安漣

母は家女

室は戸川隱岐守

安澄の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安愛の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安存又は安漣

母は家女

室は戸川隱岐守

安澄の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安愛の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安存又は安漣

母は家女

室は戸川隱岐守

安澄の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安愛の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安存又は安漣

母は家女

室は戸川隱岐守

安澄の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安愛の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安存又は安漣

母は家女

室は戸川隱岐守

安澄の女

母は家女

室は戸川隱岐守

安愛の女

母は家女

○花房駒之系譜(第四轉芝場城趾参照)
姓は清和源氏にして五郎駒通といふものが當陸國花房卿に住していたので姓とした。正

忠利
忠判
忠治
忠勝
助兵衛
始め室町多兵に仕へ後ち徳川
家康に屬し岡ノ原に功あり高
木三生
五郎左衛門
五利
A

正定
女二
唐林金主
天祐
寧喜多直家
一
八千石
鎧
光明城
主
三
趙后
王
孫生
七

正喜 正成
宇喜多氏源七后高松に安隠し慶長十五年六月廿二日
八十六歳に歿。法名道懐妙憲寺に葬奉る。
二月八日六十九岁也
室は宇喜多吉元也

宮は宇喜多家
家の臣末藤修
理高俊通の女
猿樹領主の祖

(B)
千石分知 辰禪守
貳直 津寺領主の祖
貳信 一畠
慶安元年九月朔日

六ナミ方弘
(柳原氏の祖)
脳攻 | 脳勝 実は坂田豊前守正保
の四男 義養子
脳信
七日セナ六ナミ方弘
室は秋月佐渡守
種信の子

伊織
豊云
一千石分知
新庄下領主の祖
宝永五年十一月五日死
伊織
武早世
高四百石
云々
東
斬絶
奇宮

○ 清水宗治系譜
（萬四輯 高松城水攻の歴史参照）
。 。 六郎兵衛
右二門尉

（吉備津宮の社人にて、平清盛の臣に
難波次郎經遠と云ふものあり、同一人
ではなかろうか）。

宗治 宗室 景右二門 某
室は中島景介の女
(大炊今元行之安)
氏に属す高松城主
八千石、天正十年高松
城に切腹、法名清鏡院、水岸寺宗公

宗忠 難波田兵衛尉
雄浪家相続
天正十年高松城主切腹

女 荒井太無御の室
泄上 碩無御の室

子孫は長州に住レ二千石々食む
宗定 宗志の嗣を絶て姫波姓を名棄す。宗室は一宗永
天正十二年(1544)にて死去したので遺領へ
き継いだが慶長五年(1600)の頃 前岡山へ
帰り浪人となる。

傳説によると明和年間に清水宗知の嫡孫某在るものと、長州毛利氏の参観交代の時下道郡浜田の宿に泊られた。某は当時備前に住していながら、清水家の由緒書や毛利家々へ贈はれた。状況等を数通差出して仕官を乞ふたが、季用がなく空しく備前に帰つたといふ。其後又毛利氏が岡山の京橋を通行の時も仕官を願つたが許答せられず、執拗にその貌藤井の宿に至つて全百両を賜ふ猶不足に思ひ、其后毛利氏の帰途を要して再三哀願したが取り上げに在り左かたといふ。(川辺の宿は奥津町、藤井の宿は西大寺市に属といふ)。

清和天皇の孫

源經基 - 満仲 韶光十代高は武田信虎

賴信 - 賴義

義家・惣太郎

義親 - 義親

義家・惣太郎

吉錦谷 莽府

義重

朝氏

新田氏

江戸幕府

長親

朝氏

義貞

松平氏

義長

朝氏

義貞

元和三年上野国群馬郡高崎城主

○○○

元和三年上野国群馬郡高崎城主

五万石

信一

朝氏

新田氏

江戸幕府

利長

朝氏

義貞

元和三年上野国群馬郡高崎城主

○○○

元和三年上野国群馬郡高崎城主

五万石

信一

朝氏

新田氏

江戸幕府

利長

朝氏

義貞

元和三年上野国群馬郡高崎城主

○○○

元和三年上野国群馬郡高崎城主

五万石

信一

朝氏

新田氏

江戸幕府

利長

朝氏

義貞

元和三年上野国群馬郡高崎城主

○○○

元和三年上野国群馬郡高崎城主

五万石

信一

朝氏

新田氏

江戸幕府

利長

朝氏

義貞

元和三年上野国群馬郡高崎城主

○○○

元和三年上野国群馬郡高崎城主

五万石

信一

朝氏

新田氏

江戸幕府

利長

朝氏

義貞

元和三年上野国群馬郡高崎城主

○○○

元和三年上野国群馬郡高崎城主

五万石

信一

朝氏

新田氏

江戸幕府

利長

朝氏

義貞

元和三年上野国群馬郡高崎城主

○○○

元和三年上野国群馬郡高崎城主

五万石

信一

朝氏

新田氏

江戸幕府

利長

朝氏

義貞

元和三年上野国群馬郡高崎城主

○○○

元和三年上野国群馬郡高崎城主

五万石

信一

朝氏

新田氏

江戸幕府

利長

朝氏

義貞

元和三年上野国群馬郡高崎城主

○○○

元和三年上野国群馬郡高崎城主

五万石

信一

朝氏

新田氏

江戸幕府

利長

朝氏

義貞

元和三年上野国群馬郡高崎城主

○○○

元和三年上野国群馬郡高崎城主

五万石

信一

朝氏

新田氏

江戸幕府

利長

朝氏

義貞

元和三年上野国群馬郡高崎城主

○○○

元和三年上野国群馬郡高崎城主

五万石

信一

朝氏

新田氏

江戸幕府

利長

朝氏

義貞

元和三年上野国群馬郡高崎城主

○○○

元和三年上野国群馬郡高崎城主

五万石

信一

朝氏

新田氏

江戸幕府

利長

朝氏

義貞

元和三年上野国群馬郡高崎城主

○○○

元和三年上野国群馬郡高崎城主

五万石

信一

朝氏

新田氏

江戸幕府

利長

朝氏

義貞

元和三年上野国群馬郡高崎城主

○○○

元和三年上野国群馬郡高崎城主

五万石

信一

朝氏

新田氏

江戸幕府

利長

朝氏

義貞

元和三年上野国群馬郡高崎城主

○○○

元和三年上野国群馬郡高崎城主

五万石

信一

朝氏

新田氏

江戸幕府

利長

朝氏

義貞

元和三年上野国群馬郡高崎城主

○○○

元和三年上野国群馬郡高崎城主

五万石

信一

朝氏

新田氏

江戸幕府

利長

朝氏

義貞

元和三年上野国群馬郡高崎城主